

金融仲介機能のベンチマークについて

2024年9月

「金融仲介機能ベンチマーク」の公表について

- J Aバンク（J A、都道府県信用農業協同組合連合会、農林中央金庫）は、農林水産業の発展に寄与し、地域のみなさまの暮らしをバックアップすることを目指しています。
- 2022年度から2024年度を取組期間とする J Aバンク中期戦略では、総合事業の強みを生かした J Aバンクならではの金融仲介機能を発揮して、生産者の経営の安定・成長（＝付加価値向上）を図り、管内生産者等から信頼を獲得することで、自らの持続可能な経営基盤の維持・強化を目指すとともに、農業融資新規実行額の伸長を図っていくこととしています。
- 今回、J Aバンクの金融仲介機能の発揮状況として、これまでの幅広い取組みの中から「取引先の経営改善や成長力の強化への取組み」をベンチマークとして公表するとともに、今後も「金融仲介機能のベンチマーク」を活用し、お客さまのニーズや経営課題の解決につながる本業支援・融資支援などに積極的に取り組み、地域経済の活性化に努めてまいります。

参考 | 「金融仲介機能のベンチマーク」について

2016年9月、金融庁が金融機関における金融仲介機能の発揮状況を客観的に評価する指標として「金融仲介機能のベンチマーク(以下「ベンチマーク」という。)」を公表いたしました。これは、私ども J Aバンク中期戦略で掲げている J Aバンクの目指す姿そのものであり、「農業所得向上・地域活性化」の実現に向け、不断の取組みを継続してまいります。

- JAバンクでは、「金融仲介機能ベンチマーク」の公表に併せ、「地域密着型金融の取組み」についても公表を行っております。
- 農業・地域社会に貢献する地域密着型金融の取組みとして、①農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援、②担い手の経営のライフサイクルに応じた支援、③経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供、④農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献の4項目について、公表を行っております。

1 取引先の経営改善や成長力の強化

- JAバンクでは、農業者のみなさまのライフステージに応じた融資・出資を通じ、経営改善や成長力の強化にかかるサポートに積極的に取り組んでいます。

① ライフステージ別の長期資金残高（2024年3月末） **19,098億円**

			新規就農	就農後	法人化・事業拡大	事業発展	承継再生	農業関連団体等
ライフステージ別の長期資金								
プロパー・ 制度資金	JA 信連	新規就農関連資金	農業近代化資金		負債整理資金			
		34億円	2,037億円		733億円			
			アグリマイティー資金					
			2,354億円					
			農機ハウスローン					
	1,163億円							
	その他農業者向け資金							
	3,700億円							
	金庫	農業者向け資金				その他農業関連資金		
		296億円				2,906億円		
日本公庫受託資金		青年等就農資金	農業経営基盤強化資金（スーパーL）				農業者向け資金	
		577億円	3,910億円				1,387億円	

※上記残高は、長期資金(災害資金除く)のみを集計しているため、ディスクロージャー誌等の残高数値と異なります。
農林中央金庫の貸出金残高からは、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化支援資金等の制度資金の原資資金を除いております。

② アグリ社を通じた出資金額（2024年3月末累計投資額） **160億円**

アグリ社ファンド	アグリシードファンド	担い手経営体応援ファンド	プロパーファンド	SFVCファンド	復興ファンド
	27億円	10億円	71億円	33億円	18億円

取引先の経営改善や成長力の強化への
取組み事例

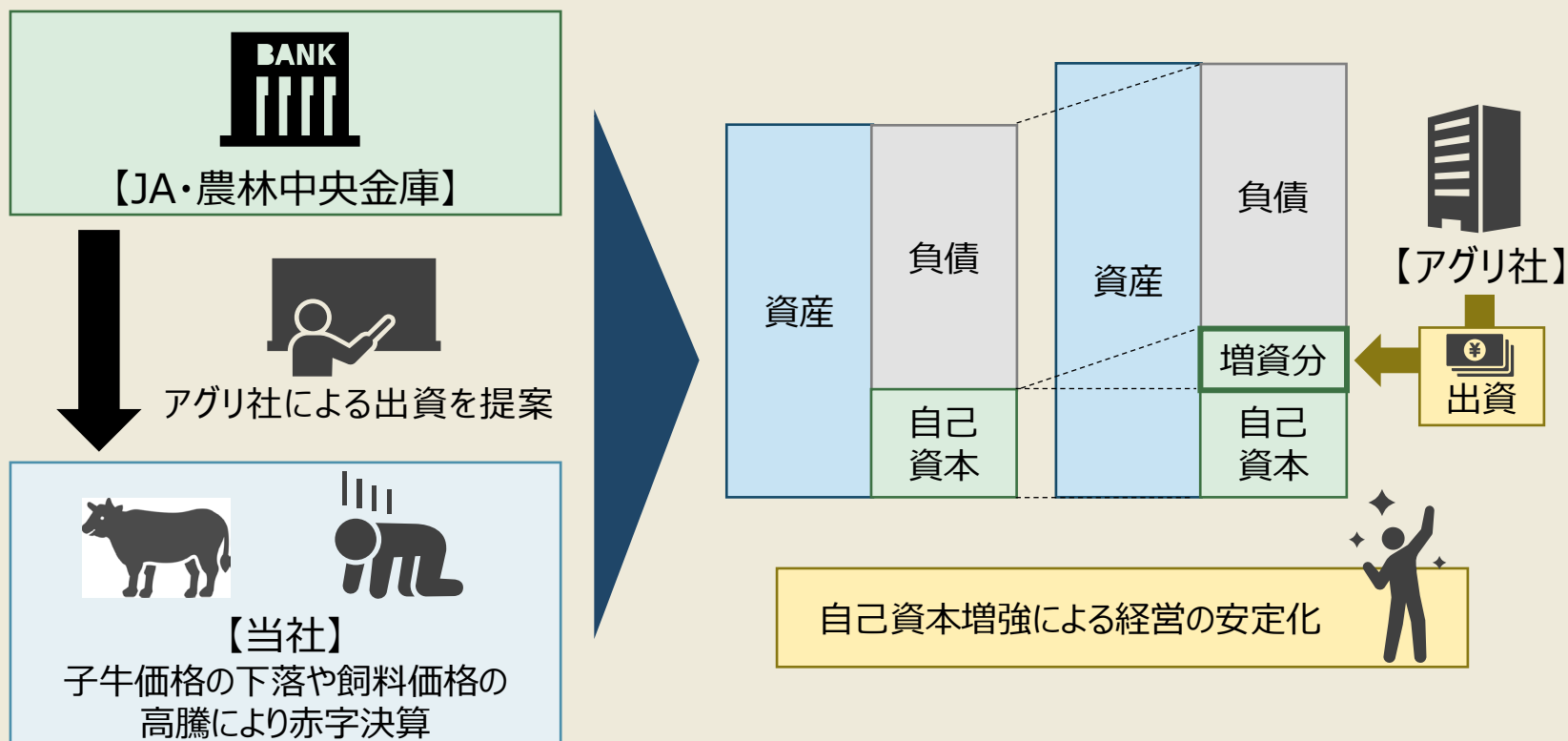
飼料価格高騰に対する 自己資本の下支え

実施主体

JAおきなわ、
アグリビジネス投資育成(株)
(アグリ社)、
農林中央金庫 那覇支店

農林中央金庫那覇支店では、子牛価格の下落や飼料価格の高騰により赤字が続いていた繁殖牛農家に対して、唯一の取引行であったJAと連携し、アグリ社による出資を活用した経営安定化の取組みを行いました。

[取組概要]

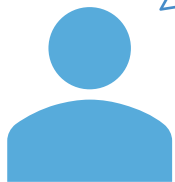


成果・効果

当社は、子牛価格の下落や飼料価格の高騰の影響で赤字決算が続いていたが、本取組みを通じて自己資本を増強したことで経営の安定化を図ることができました。

これにより資金借入の選択肢も増加したため、今後はタイミングを見極めつつ母牛の増頭を検討していけるようになりました。

【当社代表の声】



飼料代の高騰、子牛価格の下落で資金繰りが難しくなっていたため、今回の出資は本当にありがたい。
ウクライナ問題等が起きなければ母牛を増頭したいと考えていたため、増頭のタイミングは今後検討していく。

今後の予定・将来的に目指す姿

当社は、中長期的な目線で事業承継を検討していることから、引き続き当社支援に努め、円滑な事業承継が行えるようサポートしていきます。